

「友の会に入ってからよかった」

第26回道北勤医協友の会研修交流会

地域とつながる友の会づくりへ

10月28日(土)、道北勤医協友の会研修交流会が旭川市勤労者福祉会館で開催され、101人が参加しました。

友の会連合会の上ヶ嶋哲雄会長は開会にあたり、「道北勤医協友の会のテーマである『創る・つなぐ』」と挨拶しました。

「友の会に入ってからよかった」と、道北勤医協友の会研修交流会に参加した人々の声。会場は笑顔あふれた。

午前は地域包括ケアを

しっかり学ぶ

午前の企画は、「無差別平等の地域包括ケアについて」と題し、道北勤医協の鈴木和仁理事長の記念講演が行われました。

講演では、団塊世代がすべて後期高齢者となる2025年問題が8年後に迫っていること、独居高齢者の増加と



鈴木理事長の記念講演

拡大する中で、友の会の役割として①無料低額診療の普及②健診増進活動、認知症・フレイル予防③生活支援活動強化④防災問題も含めた地域の諸団体との協同強化の4点を挙げ、活動の推進を訴えました。

午後は話しあおう、

学ぶ、動く交流が

「我が々の存在価値であることを強調しました。また、旭川市での在宅看取りの現状や、一条通病院の忘れ外来の事例などから認知症対策の課題も説明しました。最後に、格差と貧困が与えるものでした。」

次に、道北勤医協看護部主任会から特別報告として、地域での事例紹介がありました。最期まで自分らしく過ごす人生を望む患者を支える看護師の姿は、参加者に感動を与えました。

午後5つの班に分かれた分散会と、特別講座として「認知症サポーター養成講座」が行われました。

分散会では、健康運動指導士の石川朋美さんによる「頭も体も元気はつらつ」と題した運動講座を開催。イスに座ったままできる筋肉を落とさないための運動や、認知症予防の頭の体操が次々と紹介されました。石川さんの話術に参加者からは終始笑いが絶えず、約1時間の運動も楽しく行いました。

笑顔あふれた運動講座



講師の石川さん

「友の会と職員のとりが地域で困難を抱えている人の希望の光となるよう頑張ります」と、石川さんの話術に参加者からは終始笑いが絶えず、約1時間の運動も楽しく行いました。

道北の若手職員たちから全道の仲間へ

「助けたい」思いがひとつに

全道ジャンボリー in 道北での奮闘



お揃いのTシャツで奮闘した若手職員たち

道北勤医協の若手職員たちは30年以上前から「一人ぼっちの青年をつくらない」という目的で「青年ジャンボリー」という組織を作り、交流を深め合う場として代々活動しています。

今年旭川市で全道の民医連の若手職員が集うビッグイベント、「全道ジャンボリー in 道北」が開催されました。その企画運営を任された道北のジャンボリーの若手職員たちの奮闘ぶりを、事務局長を担った旭川北病院事務の柴田恭宏さんが語りました。

全道ジャンボリーの企画会議では、「医療制度をしっかりと学び、病気のことで苦しんでいる人を助けられるようになる」「稚内市で多くの市民がつながり、支え合いの医療、運動を知ってもらいたい」などの意見が出されました。議論を重ね、「患者さんの『助けて!』という声をしっかりと受け止めて、助けることができるように」

「助けたい」思いがひとつに。全道ジャンボリー in 道北での奮闘。当日は約100名が参加し、道北での無料低額診療と薬代の助成制度、稚内市での医療過疎問題などを学習し、事例検討も行いました。参加者からは私たちの思いを受け取ってくれた沢山の感謝を頂きました。多くの先輩職員から助言・協力も頂き、無事大成功に終わることが出来たと思っています。

青年ジャンボリーはこれから仲間たちと時に学び、時に交流し、医療の知識はもちろん民医連職員としての考えも深め、多くの方々に助けられるようになりたいと思っています。

多くの市民で稚内の医療を支えよう

第3回 地域医療を考える市民のつどい

11月1日に地域医療を考える稚内市民会議が主催する「地域医療を考える市民のつどい」が開催されました。このつどい

の合言葉は「感謝・励まし・絆」。全体で約200名の市民が参加し、地域医療を支える主人公としての役割を考えました。

つどいでは稚内市の青山滋副市長が挨拶し、地域医療を守るために多くの市民が関わっていることへの謝意が述べられました。続いて行われた市立稚内病院の國枝保幸院長の基調講演では、地域



会場は多くの市民で埋まった

医療を考える稚内市民会議の取り組みが始まり、市立稚内病院が応援されている実感があることが話されました。

今年9月に結成された病院・健康・未来・医師誘致の4つの応援団の代表からは行動計画の報告があり、応援団を市民の中に広めるためにそれぞれの応援団への参加が呼びかけられました。

宗谷医院からも職員20人が参加し、それぞれが応援団に加わりこの運動を一緒に進めていくこととしていきます。

(宗谷医院 三瓶峰智)

友の会無料法律相談のお知らせ

12月13日(水)、午後2時から「あかつき法律事務所」の畑地雅之弁護士がご相談をお受けします。

※予約制です(担当者が事前に相談内容をお聞きしますが、秘密は厳守いたします)。

連絡先 33-0854

(友の会連合会)



道北の医療 500号記念企画 あゆみを語る

道北全域の医療を 変革する思い胸に

太田 元美さん
(道北の医療初代編集長)

機関紙「道北の医療」が創刊500号を迎え、感無量です。

初代編集長として、創刊当時の思いを振り返らせていただきたいと思っています。

道北勤医協の本格始動と同時に、友の会向けの

外科、整形の開設に 奮闘した看護集団

石野 紀子さん
(一条通病院初代総務長)

新聞記事の頃の旭川市は当番病院制もなく、救急患者はたらいまわしになるなど市民に不安が広がる中で、勤医協への地域の医療要求や期待が高まっていました。



創刊号1面
働くものの医療を道北に
旭川医院開院
2日前、開院
祝賀会の参加
者の皆様にで
きたての創刊
号を手渡すこ
とができたし
た。

これからも 勇気と励ましを

太田 秋男さん
(元道北の医療編集長)

「道北の医療」の編集に携われたことで限らない出会いを得ることができました。私のその後の生き様に大きく影響したと感謝しています。創設の頃の思いは尽きませんが、縮刷版「道北の医療」や5周年記念誌「明日を拓く」で振り返る事ができます。今、あらためてその息吹を感じてもらえと嬉しいのです。

「道北の医療」には、今だから伝えなければならぬテーマがあるのだ

各地の友の会を 組織して

東 博さん
(友の会連合会初代事務局長)

1993年10月23日に道北勤医協友の会連合会が発足しました。発足にあたり、当時の専務理事と組織課長から私に声が



第212号1面
友の会連合会が発足
た。それに並
行して友の会
の存在しない
地域での新規
立ち上げや、
既存の友の会
議論しまし

かか、事務局長として活動することになりました。

当時、全国の民医連で共同組織強化が議論されており、道北勤医協にも友の会連合会の発足を検討する推進委員会が立ち上げられました。佐々木利正委員長を先頭に20人の推進委員で3年かけて

の役員体制確立などの組織整備を進めました。そうした中で友の会には13742人が加入し、371人の道北の医療配布世話人が6165部を手配りする規模となり、連合会発足を迎えました。発足総会には旭川市内外の30の友の会から54人の代議員が集まりました。

らも現場で奮闘している職員を励まし、友の会に勇気を与える紙面づくりを期待しています。

自分たちの宗谷医 院を地域に広げて

堀 鈴子さん
(元宗谷医院建設推進委員)

で勤医協中央病院の全面的支援の下、15名ほどの看護婦が交代で研修に参加しました。研修を終え戻ってきた看護婦たちはたくましく成長しており、現場を守っていた看護婦たちと協力して準備を進めました。



第100号2面
看護婦の外科研修スタート

開設後、建設運動に関わった人たちは「自分たちが作った病院」との思いが強く、院所まわ



第218号1面
稚内建設用地決定

宗谷医院の建設は長年の運動が実り、「やっとできた」という思いでした。友の会入会と建設基金をたくさん集めようと、地域での健診に参加された方や宗教組、新婦人の方々にも協力いただき活動を広げました。本当に病院がなくて困っていた中で、話をすると抵抗なく会員になってくれた方が多かったです。

現在は医療懇談会も役員宅を会場に毎月開きました。「差別しない、いい病院」を地域の方に知らせて利用してもらいたい思いがありました。利用した方々から「親切だ」という評判を聞くと本当に嬉しかったです。

「道北の医療」

500号発刊によせて

道北勤医協理事長 鈴木 和仁

創刊から42年、「道北の医療」は500号を迎えることが出来ました。「良い医療を実現することとは、医療従事者の頑張りにだけではない。地域の多くの住民が医療を身近なものとし、良い医療が住民の要求になり、住民が参加することで可能となる」という信念のもと、自前のメディアを持つことを決めたのがその出発点と言われています。

現在、多くの人々がスマホを持ち、簡単に様々な情報を手に入れることが可能となり、多くの医療機関も親切で良い医療を当たり前の事として実践する時代となりました。しかし、その一方で格差と貧困は一層拡大しており今後、超高齢少子社会はさらに進み、認知症患者の増加とともに介護を必要とする高齢者も増加し続けます。

このような時代の中で、私たち民医連は無差別平等の地域包括ケアの実現を掲げて、医療介護

読者のみなさまへ

今号は500号記念号となり、特集記事を組みましたので医療講座、相談室の窓、さらりNsはお休みします。

友の会 だより

各地からのトピックス

笑顔ひろがる まちづくりを

宗谷友の会総会



感謝の思いを手にする田中会長

宗谷友の会は11月11日(土)、22回目の総会を稚内市内の公共施設を会場に



秋晴れの中、26人が温泉で交流。次年度方針も確認 啓明友の会 総会&温泉ツアー



島利子会長が会員、元気拡大と楽しい活動の継続訴え 永山東友の会総会



配布世話人さんへの日頃の感謝を伝えて。21人で交流 豊岡西友の会 配布世話人のつどい



発言する雪田さん

開催し、80人が参加しました。総会では稚内南友の会のお二人が地域をつなぐ活動の発言をしました。雪田清人さんは地域高齢者の居場所づくり「たまり場『えがお』」の活動を報告。「参加者が笑顔になれる町内の福祉事業として、宗谷病院、行政と連携して開始しました。友の会活動としても『町内の宝』である宗谷病院と地域のかけはしりになれたかなと思っております」と思いを述べました。

曾我部藤夫さんは町内での土曜サロンの活動について、「町内で高齢独居が進む中、孤独死だけはさせない思いで始めました。気楽に集まってきた。宗谷病院の神長まゆみ看護師長が職員を代表して友の会への感謝の言葉を述べ、職員全員が記した感謝の思いが田中俊美会長に手渡されました。※総会での平間信雄さん(まちづくり連携室室長)の講演「医療と健康のまちづくり」これからは次号で紹介いたします。

話をしようという会ですが、市立病院の研修医を迎えて話しました」とまちづくりの交流の場にもなっていることを報告しました。

先日、ドラッグストアで年賀状印刷のちらしを見つけてきました。ついこの間お正月だったと思っていたら、もうそんな時期かとびっくり！時が経つのが早い早い…。今年のやり残しは何かなく？



クロスワード楽しみ

旭市 大柳 宣子さん

毎回クロスワードパズルを楽しみにしています。頭の体操と思っています。色がなかなか難しく、とても充実します。

時の流れの速さに驚き

旭市 見角 文さん

病気になる前に自分の体は自己管理。1日24時間楽しく過ごそうと思っています。

自己管理で健康な毎日

旭市 千葉 裕さん

我が家では暖房費節約のため、とにかく厚着します。かなり効果があり、一石二鳥でお勧めですよ。

冬は厚着で暖房費節約

旭市 山崎喜代美さん

友の会の役員を長く務めている井理さん。教員を退職後、春光友の会の役員さんに声をかけられ「道北の医療」の配布活動を始め、現在14部配布しています。

「道北の医療」宅配しています

反戦への強い思いを胸に

春光友の会 井理秀明さん



趣味はテニス。健康維持のために週1〜2回は身体を動かしています。旭川の出身ですが、幼少時代に家族8人で中国の北京に渡り、終戦後の昭和21年、小学4年生の時に帰国し旭川に戻ってきました。戦後の厳しさ、混乱や食糧難を経験し、「勝っても

負けても人々が傷つく戦争はしてはいけない」との強い思いが生まれたそうです。井理さんは現在、地域の9条の会にも加入し、平和を守る活動を進めています。「いまの多くの議員はどちらを向いて政治をしているのか。ただ選挙に受かればいいと右往左往している」と議員の活動姿勢を指摘し、「このままの政治では昔の戦争する国に戻るのではないかと心配。それを止めていかねばならないと思っています」と反戦への強い思いを語りました。

友の会の役員を長く務めている井理さん。教員を退職後、春光友の会の役員さんに声をかけられ「道北の医療」の配布活動を始め、現在14部配布しています。

趣味はテニス。健康維持のために週1〜2回は身体を動かしています。旭川の出身ですが、幼少時代に家族8人で中国の北京に渡り、終戦後の昭和21年、小学4年生の時に帰国し旭川に戻ってきました。戦後の厳しさ、混乱や食糧難を経験し、「勝っても

読者のみなさまへ

本紙記事のご感想やご意見、みなさまの日常の出来事、絵手紙などのご投稿をお待ちしています。クロスワードパズルの「応募と一緒にどうぞ。掲載させていただきます。

方には図書カードを送ります。また、今年6月の郵便料金改定に伴い、ハガキ料金が52円から62円になっています。古いハガキをご使用される場合はご注意ください(編集部)。

いつでも元気 MIN IREN 2017 12月号 380円 好評発売中

巻頭エッセイ/山田ルイ 53世

特集 社会保障改革のゆくえ

どの子にも学ぶ喜びを 寺子屋みのり

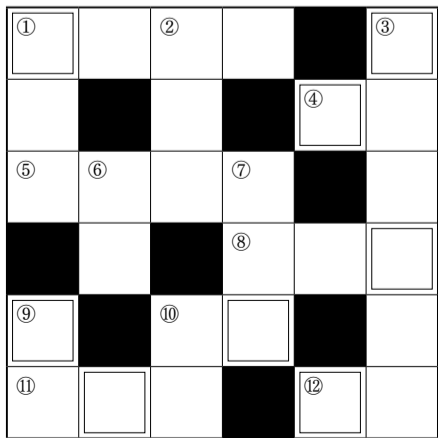
けんこう教室 痩せすぎ注意! 骨粗しょう症

まちのチカラ 富山県立山町

食と健康 高齢者に適した食べやすい食事②

発行一誠堂出版研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 印刷と発行人センター8階 電話 03(5642)5656(代) FAX 03(5642)5657

クロスワードパズル 344



ヨコのかぎ?

- 「道北の医療」創刊号の一面記事を書いた言葉。「働くものの○○○○」を道北に。
- 腰掛。
- 国会ではこんな戦術も。○○○○。
- 四字熟語。○○山幽谷。
- 寒い日は○○○○でお湯を沸かしてお茶をどうぞ。
- 物事の制約。

タテのかぎ?

- 慣用句。○○○の文は静かに書け。
- 切迫の対義語は?。
- 道北勤医協5周年誌の題名は?。
- 枕。正○○。
- 医療○○○、介護○○○。
- 刀剣の刀身の部分を入れる筒。
- 斬○○。前○○。
- 応募方法

答えは、ハガキか、各院所にある「応募用紙」に、お名前、住所を記入のうえ応募ください。Eメールでも応募できます。

クロスワードパズル10月号解答

カ	ヤ	ア	リ
シ	メ	ン	ソ
ア	キ	モ	ヤ
シ	ジ	ク	ヘ
ガイ	カ	ツ	イ
ル	ク	ソ	ミ

◆当選者(敬称略)

荒川恭子、神谷マサ子、金子忠子、北野トメ子、久保あゆみ、今ゆきの、左近千鶴子、山田智善、蓬田雄一、若狭明憲(以上旭川市)、齋藤清子(名寄市)、山本京子(東神楽町)、川端洋(和寒町)、柏木美鈴、神山笑子、川瀬紅羽(以上稚内市)、柳聡子(豊富町)、花本舞、船木友子(札幌市)、山田隆司(妹背牛町)

1975年11月 道北勤医協が開院